

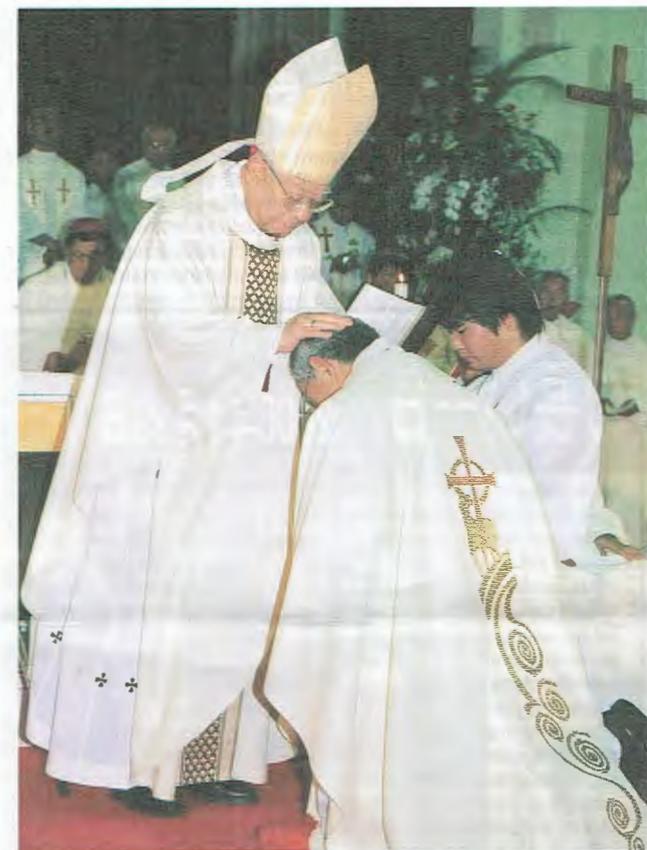
鹿児島教区の新しい牧者

郡山健次郎司教叙階・着座

昨年十二月三日、教皇ベネディクト十六世から糸永真一司教の後任として鹿児島教区に任命されたパウロ郡山健次郎被選司教の叙階式が、一月二十九日(日)午後二時から鹿児島純心女子高等学校(長谷崎富子校長)体育館で行われた。教皇大使や全国から駆けつけた司教、司祭たちと心を一つにして式に参列した千六百人を超える会衆は、これまで鹿児島教区民を導いてきた糸永司教へ感謝を表すとともに、新しい牧者の就任を心から喜んだ。

郡山健次郎被選司教の叙階式は当初、鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂で予定され叙階式実行委員会がその準備を進めていた。しかし同聖堂の収容能力を考慮し「一人でも多くの人に参列して欲しい」という糸永司教、郡山被選司教の意向を組み、一月十一日(水)鹿児島純心女子高等学校体育館への会場変更となった。変更が実現したのは叙階式当日が中学校入学試験と重なっていたにもかかわらず、施設使用を快諾してくれた学園関係者の好意にほかならない。

会場となった体育館では、舞台上に約八十人の司祭たちが、そして舞台上に設置された内陣上に教皇大使をはじめとする全国からの二十人の司教たち、そして主司式の糸永司教と郡山被選司教が上った。



糸永司教から授けを受ける郡山被選司教

神へのまつたき信頼モットーに

糸永司教からバトン受け取る

昨年十二月三日、教皇ベネディクト十六世から糸永真一司教の後任として鹿児島教区に任命されたパウロ郡山健次郎被選司教の叙階式が、一月二十九日(日)午後二時から鹿児島純心女子高等学校(長谷崎富子校長)体育館で行われた。教皇大使や全国から駆けつけた司教、司祭たちと心を一つにして式に参列した千六百人を超える会衆は、これまで鹿児島教区民を導いてきた糸永司教へ感謝を表すとともに、新しい牧者の就任を心から喜んだ。

説教後に始められた叙階の儀では、まず聖霊の統唱、その後、主司式の糸永司教に、教区を代表し竹山昭司教総代理が「鹿児島教区教会がパウロ郡山健次郎司教の誕生を願っている」旨を伝えた。その後、糸永司教は教皇からの任命の証

「使徒座任命書」の有無を確認し、小川靖忠教区書記長が会衆の前で同書(二面に和訳掲載)を朗読した。任命書を確認した糸永司教は、郡山被選司教に司教の役目について訓戒し、これを受けた被選司教は司教の役目を生涯果たしてい

く覚悟であることを約束した。教区民の新しい司教誕生への思いが、会場を揺るがすほどの力強い祈りになった連願の間、無力な者のように床に伏して聖霊の働きを願っていた被選司教は、連願が終わると糸永司教の前に進み出て、三十四年前の司祭叙階の時と同じその手から授けを受けた。その後は、参列した司教たちが一人ずつ心を込めた授



①1,700人近い信者で埋まった純心高校体育館
 ②聖霊の助けを願い床に伏した郡山被選司教
 ③緊張も解け笑顔で祝福する新司教

温かい人柄に 笑顔と喝さいの拍手

叙階の儀後、感謝の典礼からは糸永司教に代わって郡山司教が祭壇中央に立ち主司式。参列者たちは教区長交代を実感しているようだった。

つけてくれた会員など、これまでの郡山司教の多岐に渡る人付き合いを物語る様々な人たちの姿があった。少し照れ臭そうに信者たちに祝福を贈っていた郡山司教だが、信者たちからは新司教信任ともとれる大きな拍手が返されるといつものように満面の笑みを浮かべた。

聖体拝領後の郡山司教は会場内を巡り信者たちへ祝福を与えた。会場には新司教の誕生を待ち望んでいた教区信徒ばかりでなく、修道会関係者や諸宗教の代表者、司教の兄弟姉妹をはじめとする親戚と司教の出身高校の同窓生たち、現在園長を務める志布志幼稚園関係者、また司教自身の内面を育ててくれたというM

ミサの終わりには祝賀式が行われ、この日の叙階式が来日初だという教皇大使が「今日は新しい聖霊降臨となった。私は教皇がいつも側にいることを示すためにここにいます。一緒に頑張ってください」とメッセージ

叙階の儀後、感謝の典礼からは糸永司教に代わって郡山司教が祭壇中央に立ち主司式。参列者たちは教区長交代を実感しているようだった。

つけてくれた会員など、これまでの郡山司教の多岐に渡る人付き合いを物語る様々な人たちの姿があった。少し照れ臭そうに信者たちに祝福を贈っていた郡山司教だが、信者たちからは新司教信任ともとれる大きな拍手が返されるといつものように満面の笑みを浮かべた。

純心学園での式典後は場所をホテルに移して叙階祝賀会が催された。祝賀会では教区の青年たちやタイから駆けつけた司教の旧友ワット神父の姪ウィパダさんのタイの踊りの披露があったほか、親族から司教に感激の涙を流させる素敵な贈り物がされた。

尚、叙階式会場で配られた紋章入りタオルは新司教からの贈り物である。



〒892-0841
 鹿児島市照国町13-42
 カトリック鹿児島教区
 電話099(226)5100
 振込口座 02030-2-8359
 編集発行人 末吉卓也
 1部60円年間共1100円

道標
 【司教区昇格五十周年】
 小教区が活性化し
 教区が一つとなるように

神の僕である司教ベネ
ディクトから、鹿兒島教区
司教に選任された鹿兒島教
区司祭、愛するパウロ郡山
健次郎師に挨拶と使徒的祝
福を贈ります。

敬愛する糸永真一司教
の退任によって空位になる
鹿兒島教区に牧者を立てる
にあたって、ふさわしい才
能に恵まれ、かつ鹿兒島の
教会事情に精通しているあ
なたに鹿兒島教区の統治を
委ねることが最もふさわし
いと思われま。

それゆえ聖ペトロの後
継者であり全世界の個別教
会の善について配慮してい
る私は、福音宣教省の意見
を聞いたうえで、使徒的最
高権威に基づき、あなたを
鹿兒島教区司教に任命し、
すべての権限と義務を与え
ます。またローマ以外の場

最後に、助け手である

使徒座 任命書

所で、典礼法規を順守のう
え、いかなるカトリック司
教からであれ司教叙階を受
けることを認めます。ただ
し叙階を受ける前に、カト
リックの信仰を宣言し、か
つ私と私の後継者たちに対
する忠誠を教会法の規定に
則って宣誓してください。

聖霊が七つの賜物とともに
あなたにとどまるようにと
祈ります。あなたが聖霊に
支えられ、あなたの配慮に
委ねられた信者たちが日々
ますます堅固な信仰、確か
な希望のうちに成長し、こ
とに愛と「わたしたちの主
救い主イエス・キリストの
恵みと知識において」(Ⅱ
ペトロ3・18)熱心である
よう、牧することができま
すように。

おとめマリアの執り成
しによって、主イエス・キ
リストの平和があなたに、
またわたしの愛する鹿兒島
教区共同体にとともにとどま
りますように。

ローマ 聖ペトロの傍
らにて
2005年12月3日
教皇登位 第1年目
教皇ベネディクト16世

さらに、この書簡を鹿
兒島教区の信徒と聖職者た
ちに明示することを命じま
す。教区の信者と聖職者た
ちにはあなたを愛し、あな
たとの一致に固くとどまる
ようにと励ましたいと思
います。

郡山司教の紋章が示す それでも 喜び・感謝・希望



Yet... Joy | Hope | Gratitude |

標語の中で、
鍵となる言葉は
「それでも」です。
背景の黒は、
イエスを十字架
にかけて人びと
の心の闇。「光は
闇闇の中に輝い
ています。闇闇は光を理解しなかつた」
(ヨハネ1の5)。
上部の太陽と光は御父とその恵
み。
翼は二羽の鳩。ノアの洪水終息を
告げるオリブの枝をくわえてきた
鳩(創世8の11)と、イエスの洗礼
のときに現れた聖霊の鳩(ルカ3の

22)。
世界は普遍的な平和からはほど遠
く、いまなお闇に包まれていま
す。それでも、力強く羽ばたこうとして
いる二羽の鳩。いずれも喜びと確信
をもたらずもです。
自分を不条理な死に追いやる人び
と。それでも、十字架から逃げ出す
ことなく、赦しの祈りをお捧げにな
った高邁な生きさまこそ主の生きた
遺言。

私の生き方の出発点は十字架の神
秘。苦しみの中で到達する光による
再生こそ、復活の喜び。その結果、
未来にも人びとにも希望を抱くこと
ができます。だから、最終的には
「神様みんなありがとう」。

2006年1月29日 司教叙階

鹿兒島司教

パウロ 郡山健次郎

郡山司教の長い一日 2006年1月29日

一九七二
年三月二十
日、糸永真
一司教によ
って司祭に
叙階された
パウロ郡山
健次郎師
が、同じ司
教の手でそ
の後継者と



なるため再び接手を受け
た。人情味溢れる活動家で、
そのためにかいつも真っ向
勝負で過ごしてきた若い頃
。司教になってからのこの
日の挨拶で告白したが、
そのために糸永司教を困ら
せたこともあったという。
叙階式前、式場の外で
各地から駆けつけた信者た
ちと抱擁する姿が見られ
た。師が行くところに人だ
かりができる。またその中
がよく似合う。これまで
信者たちとどんなにかわり
を持ってきたかの証である
ように思えた。

ミサが始まり叙階の儀
を待つ郡山被選司教から
は、幸いに両隣に師の先輩
に当たる司祭が立っていた
ため幾分のゆとりがあつた
ろうが、それでも緊張した
面持ちが見て取れた。
そんな緊張から解き放
たれた感があつたのは、師
がすべてを飲み込んだと思
われた接手の後だった。司
教のしるしとなる指輪をは
めミトラを被り、牧杖を手
にして会衆にその姿を披露
したときは、今日の日まで
と変わらない穏やかで優し
い表情に戻っていた。その
頃、会場の信者たちは荘厳
な式と司教の誕生に大い
なる者の力を感じて、大き
な感動を味わっていた。
ホテルでの祝賀会もま
たこれまでかかわり合っ

きた人たちの喜びで満ち
溢れていた。
各テーブルに自ら出向
き人の渦を作ってしまう。
結果的に全部のテーブル
を回ることはかなわなかつ
たが、それでも皆に気
持ちが伝わった。いや、
司教流のやり方で伝えて
しまった。

そんな郡山司教が感極
まって流れる涙を止めよ
うと目頭を押えた。親戚
たちからの贈り物を見せ
られたときだ。それは今
は亡き父・為業さんが詠
んだ歌を上野教論(純心
学園・書道)に書いても
らい額に入れたもの。
実はこの「パウロの如
く」と題された十二首か
らなる歌群は、司教叙階
の時に為業さんから贈ら
れたもの。「司教室」に飾
って欲しいとの願いは、
為業さんの思いをいつま
でも忘れないで欲しいと
の親族の心の表れであつ
た。歌の十二番目は「身
は独りに成り果つるとも
踏みこえて ひるむこと
勿れパウロの如く」と詠
まれていた。

お礼のことは

全国のそして教区の皆様
この度のわたくしの司教叙階に際しましては、心
温まる霊的花束とお祝いをいただきました。まこと
にありがとうございます。ここに紙面を借りまして
衷心から御礼申し上げます。

これから皆様のお祈りとご協力に支えられながら、
皆様とともに主の教会の奉仕のために邁進していく
所存です。ここに感謝を込め、皆様のお幸せとともに
に神さまの豊かな祝福を祈り上げます。

鹿兒島教区司教 パウロ 郡山健次郎



新司教誕生の喜び

ME会員 植村眞一郎

郡山新司教様おめでとうございます。また、長い間鹿児島教区のために「尽力された糸永司教様ご苦労様でした。有り難うございました。

新司教様誕生を知らせる電話口のこと。「あのね、郡山神父様がしきょうー」「えー、なに？神父様がしきょうー？死去？」「しきょうよ、司教！」「えー、本当？」今回の新司教誕生について、神父様ご自身が教区報で「サブライズ

キリスト教一致

祈祷集会に参加して

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」(マタイ18・20)をテーマに、今年のキリスト教一致祈祷集会が一月二十一日(日)午後二時から、日本聖公会鹿児島復活教会(中野准之師)で開かれた。

参加したのはカトリックから二十四人、プロテスタント教会から二十一人だった。集会は、中野師の主導で行われた。「神はキリスト者たちが共に集まるように招いておられる。キリストが与えた新しい道の中で、赦しと癒しと理解を見出すことができるように心を一つにして祈ろう」という導入のことばで始まり、お互いが顔を見合わせて祈り、聖歌を歌った。そして、

それは、毎日のごくありふれた日常生活の出来事について、飾ることなくありのままの自分を分かち合われるからです。そこにはいつも神様の愛を中心とした他人への思いやりがにじみ出ており、時には希望に溢れているのを感じます。また、小教区のことを心配しながらもよく動き回られます。そして、別な面からの見方や新鮮な発想に、ある意味、既成概念にとらわれない自由さを感じます。それはちょうど聖書に出てくるフアリサイ派の律法学者たちのかたくなさをとがめるイエス様の発想

若者と対話約束

郡山新司教

一月二十九日、純心学園での叙階式を終えた郡山司教は、会場をサンロイヤルホテルに移しての祝賀会で、若者との対話を行っていくことを約束した。これは、祝賀会中に行われた青年有志による余興の中のことで、徳之島や東京からも集まった二十人の鹿児島島の青年たちは、若者らしく元気に舞台上上がり、新司教の幼少の頃のわんぱくぶりや学生時代の様子、司祭に叙階されてか

現代社会は、人間の様々な精神的、肉面的な問題を抱えています。教会は、その中の私たちはこの大きな問題にどう立ち向かうのか、でも、あまりにも問題が大きすぎて気が萎えそうです。それでも新司教様のモットーである、「それでも、いつも喜び・絶えず祈り・すべてに感謝」を合言葉に、私たちが神様へ信頼を寄せ生き生きとした信仰のうちに生きるなら、社会と共に歩む希望に満ちた新たな鹿児島教区へと進化していくと信じます。

この日の集会はカトリック側もプロテスタント側もそれぞれ行事が重なり、十分な出席者を得ることはできなかった。私たち信徒一人ひとりが、日常生活レベルでプロテスタントの友人を一人でも持つことができるといふようにしなければならぬ。あらゆる機会を自分

資料によると、キリスト教一致の具体的な動きは十八世紀に見られる。特に第二バチカン公会議は、キリスト教一致を主な目標に掲げ「エキュメニズムに関する教令」を一九六四年十一月に出し、「皆が一つになるように」(ヨハネ・17)とのキリストの祈りをし、同じ聖書を読んでいる者同志が真のキリストの教会となるように私たちに刷新を強く促した。これはまた、カトリック教会がキリ

<KABAYAN SEKSIYON>

"Huwag mong pag-imbutan ang bahay ng iyong kapwa"

Ang huling kautusan na pagninilaynilayan natin ay ang "Huwag mong pag-imbutan ang bahay ng iyong kapwa". Ang g-pangsampung kautusan ay ang kabuuan ng pangsiyam na utos, na tumatalakay hinggil sa makalupang pagnanasa ng laman. Pinagbabawal sa utos na ito ang pagnanasa ng pag-aari ng kapwa, na nagiging ugat ng pagnanakaw, pa ndarambong at pandaraya na ipinagbabawal sa ikapitong utos. "Kasakiman ng mata" ay ang nagdadala sa biyolensiy a at sa hindi makatarungang gawain na pinagbabawal sa ikalimang utos. Pagnanasa, tulad halimbawa ng kahalayan, ay pinagmumulan sa idolatriya na pinagbabawal sa unang tatlong kautusan ng Batas. Ang pangsampung utos ay may kinalaman sa ninanais ng puso, na kasama ang pangsiyam na bumubuo sa lahat ng kautusan ng Batas.

Ang pandamang-gana ay dinadala tayo na magnasa ng magandang bagay na gagawin natin, halimbawa kung nag ugutom gusto nating kumain o di kaya magpainit kung tayo ay giniginaw. Maganda ang mga bagay na ito sa sarili, subalit ay lumalampas sa hangganan ng rason at dinadala tayo sa hindi makatarungang pagnanasa ng bagay na hindi sa atin. Ipinagbabawal sa ikasampung utos na ka takawan at masamang pagnais ng sobra sa hangganan ng mga bagay dito sa mundo. Pinagbabawal ang sobrang pagnais ng kayamanang gustong gawin kapangyarihan.

Ang batas kapag sinabing: "Huwag mong pag-imbutan..", ang ibig sabihin "burahin natin ang hindi magandang pag nanais ng bagay na hindi sa atin". Ang pagkauhaw sa isang bagay ay walang katapusan, mas lalo tayong nauhaw sa iba pang bagay, nagiging sakim. Hindi kontra sa kautusan na ito ang magnais ng bagay na pag-aari ng bawat isa, subalit gawin sa makatarungan pamamaraan. Mga tao ng mayroon pakikibaka sa mga bagay-bagay na hindi sa kanya kailangan sundin ang itinuturo ng Kautusan. Burahin sa ating mga puso ang pagka-ingit. Dahil ang ingit ay magdadala sa atin sa mas karumaldumal na krimen. Dahil sa ingit ng demonyo pumasok sa mundo ang kamatayan Malaking kasalanan ang ingit at nagpapahayag ng kalung kutan at tumatangi sa kawangawa; kaya ang isang taong binyag kailangan na makibaka sa paggawa ng mabuti. Na nggagaling sa kayabangan ang ingit, kaya ang isang taong binyag kailangan mabuhay na may mababang-loob. Para makaiwas tayo sa kasalanan ito kailangan natin ang Banal na Espiritu ng Diyos na siyang magtuturo sa atin kung ano ang ating gagawin sa buhay. Ang may busilak na puso, makikita niya ang Diyos sa kanyang sarili. Bagong Taon, Bagong Pag-asa at Bagong Buhay.

2月

新しい指導者を迎えた鹿児島教区のみますの発展を祈りましょう!

- 1日(水) 大勝教会献堂記念日(一九六二年)
- 2日(木) 主の奉獻
- 4日(土) ボッファイ神父命日(一九八八年)
- 5日(日) 年間第五主日
- 11日(土) ティエン教区神学生助祭叙階式・カテドラル・14時

▼世界病者の日

教皇ヨハネ・パウロ二世は、一九八四年二月十一日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡「サルヴィフィチ・ドローリス」を苦しみ苦しみのキリスト教的意味」を発表し、翌年二月十一日には教皇庁医療使徒職評議会を開設しました。さらに一九九三年からはこの日を「世界病者の日」と定め、毎年メッセージを発表しています。

この余興の準備にあたって青年たちは郡山司教の親族や、神父、CIC、CHOICE、SADE等の共に活動してきた人々などへの取材を通して、新司教のそのバイタリティと神さまを中心とした姿勢を学んだとか。

3月

- 12日(日) 年間第六主日
- 13日(月) ハンマ神父霊名(ヨルダン)
- 19日(日) 年間第七主日
- 22日(水) 聖ペトロの使徒座
- 26日(日) 年間第八主日
- 27日(月) 東條一浩神父命日(二〇〇一年)
- 1日(水) 灰の水曜日(大齋・小齋) 四旬節愛の献金
- 5日(日) 四旬節第一主日
- 12日(日) 四旬節第二主日
- 17日(金) 田原章神父叙階記念日(一九五三年)
- 19日(日) 四旬節第三主日

